

8 小児歯科臨床における発達遅滞児の早期発見

○緒方克也

緒方小児歯科医院・福岡市

小児歯科の外来を訪れる小児は、すべて成長の途中にある。小児歯科は小児の口や歯を見る専門の診療科であるが、口や歯の疾患のみを診ていては、大切な成長する子どもの姿を見落としやすい。

われわれは初診時に母親へ母子手帳を持参させ生育歴をチェックしているが、さらに保母との面接によって、育児の悩みや母子関係についての質問を行い、母親の患児に対する考え方や接し方、家庭環境の情報と収集をしている。通常、年齢相応の発達がみられる場合は、そのまま歯科的問診と処置を行うが、初診で発達状態に問題がみつけれられたときは、その後の歯科治療や定期検診時に発達の観察として円城寺式乳幼児分析的発達検査を基本に、運動、社会性、言語のほか、色や形、数の認知、創造力や集中力についても観察している。

以上のようなシステムにおいて、最近5年間に緒方小児歯科医院を訪れた小児患者へ歯科的治療および、定期的な齲蝕予防管理と歯科保健指導を行ったなかで、われわれは社会性、言語の発達に問題を持つと思われた複数の小児を発見した。今回、精神発達に問題があると考えられた症例は、歯科医師、歯科衛生士、保母によって発達の遅れについての疑いが確認された症例であった。これらの発達上の問題については児童相談所や福祉センター、保健所への紹介を行ったがその他に、当院の保母による院内保育を行って対応した。

そこで小児歯科で発見した子供の発達の問題点を、その後の成長の追跡も加えて検討し、報告する。